

# 遺伝子組み換えイネの隔離ほ場試験は中止すべきだ!

日本共産党市議団メンバーは5月後半、いろんな場所で様々な活動をしてきました。その一部を紹介します。まずは杉本議員です。

16日開催された市議会総務常任委員協議会、全国初の「大規模工事におけるワークシェアリング型入札制度」についての同議員の発言が注目されました。「公共工事の絶対量が減少しているなかで、受注を分散させることは積極的な意味を持つ。」そう評価したうえで、制度導入(今年4月1日)の2年前に遡って適用することの誤りを指摘しました。どんなにいい制度をつくっても運用を間違えば悪いものに転化します。

この新制度を適用した入札は20日に実施されました。6月定例議会では、この問題がひきつづき議論されます。

## 市議会で、新潟で、東京で...

樋口議員は18日、新潟市で開催された全県党議員会議で、妙高市の市議増員選挙応援の教訓について語りました。

合併前と後の住民サービスの変化を取り上げ争点にしたこと、日常活動の重要性をユーモアたっぷりに報告したことが話題になりました。



橋爪議員は19日、東京都内で開催された研修会(地域科学研究会主催)にパネラーとして参加しました。

分権時代の議会提案の条例づくりがテーマ。上越市がお世話になっている辻山幸宣元中央大学教授とも一緒に話した(写真上)。



市当局は16日、北陸研究センターに対して、「農業者、消費者に十分、かつ分りやすい説明を」と働きかけています。しかし、その立場は、今回の試験栽培が必要なもので、安全性に配慮されているとの前提に立っています。市への要請行動をした団体のなかからは、「すでに風評被害が始まってきている」「(農協労組)「遺伝子転換イネと聞いただけで、そのコメは売れなくなる。これでいいのか」「(生協)などといった厳しい声が出ています。

「コメどころ上越市で遺伝子組み換えイネの実験が行われている……」この情報を聞いた生産者も消費者も驚き、「こんなところでやられたんでは、風評被害でコメが売れなくなる」などといった心配や不安の声が広がっています。

こうしたなか、日本共産党上越市議団は17日に木浦市長に対して、「安全性に不安があり、遺伝子汚染などを引き起こす可能性がある。市の農業振興に重大な影響を与えるので、北陸研究センターでの遺伝子組み換えイネの隔離ほ場試験栽培の中止を働きかけてほしい」との要請文を提出しました。また、「にいがた食と農と健康、教育のネットワーク」、新日本婦人の会上越支部など5団体も23日、市長あてに「ほ場実験の即時中止」の働きかけを求める要請文を提出し、中村修治農水部長と交渉をしました(写真)。同団体は、27日には北陸研究センターと交渉することにしています。

## 日本共産党議員団などが相次ぎ要請活動

### 日本共産党上越市議団ニュース

10 2005年5月29日

連絡先	杉本敏宏	524-3787 (東本町5)
	樋口良子	544-6802 (中門前3)
	橋爪法一	548-3628 (吉川区代石)
事務局長	上野公悦	530-2203 (頸城区中柳町)

杉本敏宏議員、橋爪法一議員はそれぞれホームページを開設しています。活動日誌も書いています。アドレスは名前で検索できます。